

駒ヶ根工業高生が 豪研修前に予習

資料を和訳

駒ヶ根市の駒ヶ根工業高校の生徒が12月3日から、オーストラリアの宇宙関連機関などを訪れて研修することになり、29日、同校で予習をした。県が高校生の研修を補助するサイエンス・アンシエーション・プロジェクトに同校では初めて選ばれ、1〜3年の10人が6日間の日程で訪問。同校の人工衛星開発や小型無人機ドローンの研究などに生かす。

この日は、首都キャンベラにある米航空宇宙局(NASA)の研究所から送られた地球外生命体探査に関する資料を機械科3年の4人が手分けして和訳。これまでも現地での取り組み発表の英語原稿を用意し、英会話の勉強もしてきた。

研修には、全国の工業高校10校と協力して人工衛星を開発している宇宙航空研究班の生徒らが参加する。シドニー工業高校では、人工衛星を使った電波の送受信の研究で連携を呼び掛ける予定。NASAの施設では米



オーストラリア研修に向けて資料を確認する生徒

国内の電波望遠鏡の遠隔操作、天文台では宇宙ごみの観

測などをやる。3年の宮下会。しっかり自分の目で見て、
琉さん(18)「宮田村」は知識を深めたい」と意気込んでいた。

この記事・写真等は、信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。

【許諾番号】 shin2018-komakou 74s